

船橋市立医療センター—建替基本構想(案)【概要版】

昭和58年に開院し、建て替えによる機能強化が求められている船橋市立医療センターについて、新病院の目指す姿や診療機能、施設整備の概要等をまとめた基本構想(案)を策定しました。今後、「海老川上流地区のまちづくり」の進捗状況と整合を図りながら計画を進め、平成35年度中の開院を目指します。

新病院の基本的な考え方

新病院の使命

地域医療支援病院として、**地域の医療機関等と連携・協力**しながら医療ニーズに対応します
救急医療を主体とする急性期医療及び**がん診療**を中心とした**高度医療**を提供します
総合診療機能を有する地域の中核病院として、**市民の安心の確保に寄与**します

①地域医療をリードする病院

「地域医療支援病院」として、地域の医療機関と連携しながら、多様な医療ニーズに対応できる適切な医療を提供するとともに、人材の育成に貢献します。

②救急医療の充実

「三次救急医療機関(救命救急センター)」として、高度急性期医療のさらなる充実を図ります。また救急医療と専門医療が密接に連携し、患者の命を守ります。

③高度な医療サービスの提供

がん診療を中心とした高度医療を提供する総合診療施設として、質の高い医療を提供し、市民の生命、健康の維持に貢献します。また、幅広い症例に対応します。

④患者中心の医療の確立

患者の意思や権利を尊重した患者中心の医療を確立します。また、患者への負担が少ない治療を積極的に行っていきます。

⑤災害に対応できる病院

「災害拠点病院」として、災害時においても、市民の命を守る病院として必要な機能を備えます。

⑥教育・研修機能の充実

「臨床研修指定病院」として、全てのスタッフがスキルアップを図れるよう、教育・研修機能を充実させます。また、医療人材の育成に努めます。

⑦安定的な経営の確保

必要な医療機能を備えつつ、経営の効率化を図り、持続可能な病院経営を行います。

⑧働くことに喜びと誇りを持てる病院

優れたスタッフを確保するため、「職員にとって魅力があり、働くことに喜びと誇りを持てる病院」を目指します。

新病院の目指す姿

新病院の診療機能、施設・設備

診療機能

施設・設備

地域医療支援病院

高度医療の提供を支える施設・設備

救命救急センター(三次救急医療機関)

感染症に対応できる施設・設備

高度医療を担う総合診療施設

将来を見据えた施設計画

地域がん診療連携拠点病院

機能的な施設配置

地域小児科センター

患者中心の施設

災害拠点病院

災害に強い病院

臨床研修病院・臨床研究病院

教育・研修機能の充実

新専門医制度の基幹病院

経済性を考慮した施設・設備

地域包括ケアシステムへの対応

建て替えの必要性

- 給排水設備の老朽化や診療部門の狭隘化等の施設的な制限により、現状の機能拡充や、新たな機能の設置ができない状況
- これにより、高度化する医療技術への対応や、医療の安全と安心の確保が困難な面も出てきている

新病院では、**現在の機能を継続しながら発展させることが重要**であり、**建て替えを契機としたさらなる発展に向け、対応が必要**であると考えられます。

上記を実現するための病床規模・施設等とは

新病院の施設整備について

新病院の病床規模

医療センターのさらなる発展に向けて考えられる主な内容は、次のとおりです。

➤(1)集中強化治療室等(ICU、SCU)の充実

一般病床で確保しているICU等の集中強化治療室を、現在の14床(ICU8床、SCU6床)から、25~32床(ICU16~20床、SCU9~12床)に増床する

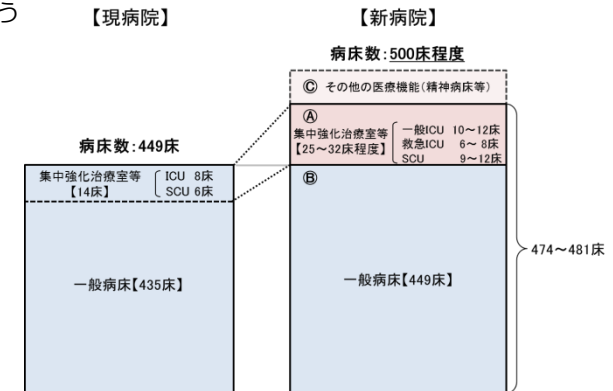
➤(2)内科診療科の充実

一般病床の増床が可能な14床の中で内科診療科の充実を行う

➤(3)その他の医療機能の検討

精神科身体合併症対応や、周産期への対応等の必要性も含めて、引き続き検討する

病床数のイメージ

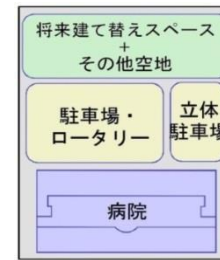


これらを踏まえ、基本構想では、新病院における望ましい病床規模を**474~481床程度+その他の医療機能(精神病床等)**と想定しました。このため、病床規模としては**500床程度**を目安に、今後、引き続き検討していきます。

施設計画等

➤(1)想定される施設の概要

- 建築物
 - 病院施設 500床規模(想定)
 - 駐車場施設 900台程度 ※現在の駐車場台数700台(仮設駐車場含む)
 - 救急ステーション
 - 院内保育所 定員70名(想定)
- その他
 - 将来建て替えスペース
 - ロータリー等



- その他
 - 将来建て替えスペース
 - ロータリー等

新病院の敷地面積としては40,000㎡以内を想定しておりますが、今後「海老川上流地区のまちづくり」の進捗状況と整合を図りながら決定していきます。

➤(2)整備スケジュール

建設用地確定後、スムーズに設計・建設に着手し、平成35年度(2023年度)の開院を目標とします。



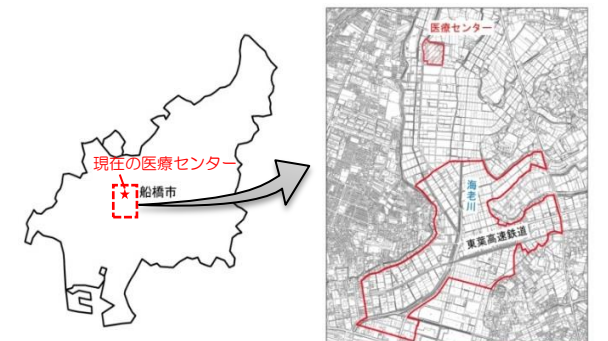
➤(3)概算整備事業費

概算整備事業費※1は総額418億円※2規模となります。ただし、この金額はあくまでも概算であり、社会情勢の変化、整備手法、工法などにより大きく変化する可能性があります。

※1 概算整備事業費は、他の事例等を基に算出した参考値
 ※2 消費税率10%で試算

移転候補地

現在検討されている移転候補地は、「海老川上流地区のまちづくり※」予定地内となっています。



※海老川上流地区のまちづくり…市の中心部に位置し、中心市街地に近い等、地理的利点がある海老川上流地区において、自然との調和を図りながら、医療・福祉機能を中核として進める「メディカルタウン」のようなまちづくり。

事業収支計画

開院後の事業収支を試算したところ、開院後5年目までは損失が生じていますが、6年目以降は経営が安定する見込みです。

既存病棟の活用方法

平成37年度時点において、築30年未満の建物はC館増築棟・E館のみとなります。既存病棟を活用する場合は、用途が限られていることや、整備する施設の必要性、事業の継続性、事業主体、改修費を考慮した費用対効果等を勘案し、活用方法を検討していく必要があります。